

# 交通 評論



昨年末にエジプト紅海に面したリゾート・シャルムエルシェイクにサメが出没し、ロシア人ダイバーやドイツ人女性が襲われたというニュースに驚かされた。通常、海岸に現れないサメが人を襲ったのは、よほどの餌不足か、または温暖化で海水温が上昇したためか、などと言われている。海水温の上昇に関しては、北限と言われた東京湾に珊瑚が群生したとか、台風の発生海域が高緯度に移ってきているなどの報道もある。地球温暖化の影響は海にも現れ始めていると言え

るのだろうか。  
海水の温度は大気と同様、主として太陽の熱で温められて決まる。大気と違

し、変化が明らかになるのにも時間がかかり、元に戻るにも同じくらいの時間が必要である。その影響の大きさも大気とは比べものにならない。気象庁は赤道付近の海面水温の0.5度程度の変動を調べてエルニーニョ・ラニーニャの判定を行っているが、その程度の変動でも地球の気候は大きな影響を受けている。

1980年代後半から90年代に気象大学の海洋実習で生徒にお付き合いしたことがある。海水温の測定は東京湾から八丈島に向か

## 海水の温度

土器屋 由紀子

移動中に黒潮にぶつかって海水は1000倍のあたりで、深度センサーのついた投げ込み式の温度計で、海面から数百メートルの水温を連続的に測定するのであるが、黒潮の流れで揺れる船の上で、船酔いに悩まされ、センサー投入後に刻々送られてくるシグナルをパソコン上で読む作業が辛かったことを思い出している。

1980年代後半から90年代に気象大学の海洋実習で生徒にお付き合いしたことがある。海水温の測定は東京湾から八丈島に向か

観測を行っている気象衛星のデータを数分間観測する

モデルの初期値に必要な2000層より深い深層の観測データは観測船でないと得ることができない。また、地球温暖化に関わる二酸化炭素のデータや生態系の変化を示す生物データの取得についても、今のところ観測船の独壇場である。冒頭のサメについて考えてみよう。サメは軟骨魚類に属するがその種類は500種程度、その中で人を襲うのは1割程度で、ほとんどのものは食料としてかまぼこなどの加工食品に使われている。海洋の食物連鎖の頂点にあり、行動範囲も広いので、海水温が直接の原因というよりは海の生態系の変化ではないかと思われるが、この点を調べるのにも詳しくは観測船のデータによる裏づけが必要になるだろう。

(江戸川大学名誉教授・元気象大学教授)